属人区長の書簡 (2014年1月)

2014/01/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

未だに私たちの心とこの地上には、 先日の降誕祭に黙想した「いと高き ところには栄光、神にあれ、地には 平和、御心に適う人にあれ」[i] とい うベトレヘムの羊飼いたちへの天使 たちの言葉が、鳴り響いています。 御独り子のご託身とご誕生に現れた 神の栄光は、人々の間の平和と兄弟 愛と分かちがたく結びついていま す。人間同士は兄弟になれるし、ま たそうなるべきであるなら、私たち 皆は同じ父である神の子どもである はずです。神は、私たちをご自分に 象って、ご自分に似たものとして創 造されました。そして、みことばが 人類の頭として人となり、私たちを 罪から救い出し、神の養子となるた まものを下さったのです。これこ そ、天使がベトレヘムでイスラエル の人たちだけではなく、全ての人々

に告げた大いなる知らせなのです。 「わたしは、民全体に与えられる大 きな喜びを告げる。」[ii]

この祭日に、ヨゼフの愛深いまなざ しの許、マリアに抱かれたイエス を、私たちは思いを集中させて眺め ました。この無防備な幼子は、天地 の創造主、永遠の神のみことばなの です。罪以外[iii] 全く私たちと同じ 人となられたこの幼子をじっと見つ めていると、決してお返しすること のできない私たちへの主の大きな愛 に心打たれ、唯々、礼拝と感謝の念 に駆られるのみです。新年を、そし ていつも、このように過ごすことに しましょう。聖ホセマリアは度々ut in gratiárum semper

actióne maneámus と勧めていました。主がこれまでに注がれた、そしてこれからも注いでくださる全ての善に対して感謝することを忘れないようにしましょう。それには、霊

的・物的、大小さまざま、知っていることや知らないこと、喜びをもたらしたもの、また悲しみをもたらしたかもしれないものがあるでしょっ。創立者と共に、皆さんにそして私自身に繰り返します。「万事にかいて神に感謝せよ。すべては善いからである。」[iv]

降誕節は、神の母マリアの祭日で後 半に入ります。今、私たちはこの比 類のない方に釘付けにされます。こ の方の―ecce ancilla Dómini[v] 私 は主のはしためです一という非常に 単純な言葉で、みことばの託身が実 現され、私たちはイエス・キリストに おいて神の子どもになりました。そ して私たちは、アダムとエバにつな がる絆以上に強い兄弟愛に結ばれた 兄弟になったのです。「お母さま、 あなたはあの『なれかし』の一言 で、私どもを神の兄弟、神の栄光の 世継ぎとしてくださった。御身は祝 せられたまえ。」[vi] こうして、人

の心の深奥の熱い望みが実現されます。「兄弟愛への熱望が消えることありません。それは私たちを他の人たちと関わるよう仕向け、出会う人々を、敵あるいはライバルとしてではなく、歓迎し愛する兄弟として見るようにしてくれます。」[vii]

キリスト教のメッセージの真髄は、 真実の兄弟愛で人々を愛することで す。キリストご自身が十二使徒に強 調なさいました。「あなたがたに新 しい掟を与える。互いに愛し合いな さい。わたしがあなたがたを愛した ように、あなたがたも互いに愛し合 いなさい。互いに愛し合うならば、 それによってあなたがたがわたしの 弟子であることを、皆が知るように なる。| [viii] 創立者のコメントで す。「初代信者が熱心に生きていた この兄弟愛を実行することが必要で す。」[ix] あなたと私は何をしま しょうか。全ての人々のためにどの ように祈っているでしょうか。人々

の生活にどのように関わっているで しょうか。

二つの側面、つまり他人のうちにキリストを見ることと、自分自身にキリストをはっきりと映し出すことは、互いに補い合うものです。こうして、自分に利益をもたらすような人間的な能力やその立派な資質によって、隣人を愛したり、また欠点

や限界、その人となりにあまり好感の持てないると、、根源とないなことを、、根源ようなことを、これできまずのできます。これできまがあった。このでは、ないでは、ないでは、いけに心をくだかれた。このためにしているとなった。となった。となった。となった。というです。

ゆる違いや障壁を取り去ってしまう ほど、人々を一致させたのです。 もはや、ユダヤ人もギリシャなもく、 奴隷も自由な身分の者もがたて 男も女もスト・イエスにおい。人種を だからな身分、文化や思想の違しした。 超えて、兄弟であることを自覚した をなすことです。」[x]

覚悟をしています。いえ、覚悟だけ

ではなく、実際にそうしているので す。」[xi]

現代のように、人々の間の情報交換 が簡単にすばやく完全にできるよう になったことはありません。これに よって全ての人々の間の一致も深ま るはずです。しかし、ベネディクト 十六世が記しておられます。「社会 のますますのグローバル化によっ て、人間は隣同士にはなりますが、 兄弟にはなりません。理性それ自体 は、人間の平等を理解し、市民的共 存に安定性を与えることはできて も、兄弟愛を確立することはできま せん。これは、わたしたちを先に愛 し、イエス・キリストを通じて兄弟愛 とは何かを教えてくださった父なる 神からの超越的な呼びかけに由来し ます。| [xii]

聖ホセマリアは、一すでに思い起こしたように一「新しい掟」を最重要視し、倦むことなくそれを説きまし

た。80年前、オプス・デイの最初の 使徒職活動の拠点DYAアカデミー に、それを記した額を掲げました。 しかし、それ以前に両親の許で自分 自身を忘れて他の人に仕えることを 学んでいました。熱心なキリスト信 者の両親の模範から一まず幼年期 に、そして少年期、青年期に一全て の人たちへの兄弟愛を具体的な行動 で表明することを心に焼き付けまし た。困っている人たちへの施し、同 級生の勉強を助けること、人々の霊 的な必要性に対応する心構えなどで す。

これらのことやその生涯の他の教えは、1月9日の生誕記念を念入りに準備するよう助けてくれるでしょう。この日付は、教会の懐の中で生まれるはずだった、この霊的な家族、オプス・デイー人種、言葉、国のない家族一の父、太祖として、これが聖ホセマリアをお選びになったことを思い起こさせます。創立者は、

愛情のこもった父親としての働きによって、全ての人々に対する神の父性の輝きを私たちに見せてくれました。それと同時に、オプス・デイにおいて、また全ての人たちと細やかな兄弟愛に生き、交わり、神のよい子どもになるよう教えました。

まさしくこれは、教皇フランシスコ が世界平和の日のメッセージのテー マとされたことです。その冒頭で、 創立者の生涯を思い起したときに示 したことを、最も重要なこととして 強調しておられます。教皇様は書い ておられます。「通常は家庭が兄弟 愛の第一の学び舎です。何よりも、 家族の一人ひとり、特に父親と母親 が責任を分かち合うことによってそ れを学びとります。家族はあらゆる 兄弟愛の源泉です。ですから家族は 平和のための重要な礎であり、道な のです。」[xiii]

家族のためにする全てのこと―神の ご計画に基づくその本質、一致と命 の享受、奉仕への原初的な召し出し を擁護すること一は、社会の構成 に、また、社会を規制する法制定に 肯定的な影響を及ぼします。毎日、 世界の家族と立法者のために祈ると 同時に、一人ひとり、可能な範囲 で、社会の健全な発展のために最も 必要な自然法に基づく家庭を保護し 推進するよう努めましょう。教皇様 が、家庭の新たな福音化を目指して 10月に予定しておられる世界特別司 教会議のために、これからの数ヶ月 間、特に祈りましょう。

ここ数日、創立者の説教を何度も黙想していますが一皆さんも内的生活を豊かなものにする創立者の説教集を繰り返し読み返すよう勧めます一、イエスの降誕の意味を明確に説明しているところを考察しました。「全人類に、平和と福音と生命をもたらすために主は来られました。金

持ちのためだけではなく、貧しい 人々のためだけでもありません。賢 い人々のためだけではなく、素朴な 人々のためだけでもありません。兄 弟である全人類のためにこられたの です。私たちは皆、同じ父なる神の 子ですから兄弟なのです。」[xiv]

お互いに兄弟であると感じ、兄弟と して振舞うことは神の賜です。「兄 弟愛は神を父とすることに基づいて います。この父性は一般的なもので も、冷淡で現実とは無関係なもので もありません。そうではなく、一人 ひとりに対する非常に具体的で時官 に適った神の愛の表われなのです(マ タイ6.25-30参照)。それゆえ、真実 の兄弟愛は父なる神に基づくときの み出て来るものです。神の愛が受け 入れられるときだけ、行為者の人と してのあり方、人々とのかかわり方 は驚くほどよくなり、人間としての 連帯と相互援助に心を向けるように なるものです。|

教皇様はお続けになります。「何よ りも、兄弟愛はイエス・キリストに 「おいて」そのご死去とご復活に 「よって」新たにされました。十字 架こそ、兄弟愛を「根付かせる」決 定的な「場所」です。人間だけで兄 弟愛を生み出すことはできません。 イエス・キリストは人を贖うために人 間性をお取りになり、死に至るま で、しかも十字架の死に至るまで御 父を愛し(フィリピ2,8参照)、復活に よって私たちを「新たな人」に造り 替え、神のみ旨に適うものとしてく ださいました。主のこのみわざに よってのみ、兄弟愛を全面的に実行 するようにと言う招きが理解できま す。」[xv]

兄弟愛は神の賜なのですから、その 促進には、主が一人ひとりに託され た務めが伴うということに、無関心 でいることはできません。創立者 は、健全な現実主義を身につけ、決 して悲観的になることなく、したた めておられます。「人生はばら色の小説のようではありません。キリスト教的な兄弟愛は、天から皆に一々におければならいことになったければなら違い、関心の食いと思ったと関わること、関わること、関わること、関わること、関わること、関わること、はな卑しさのある厳しい現実なのです。」[xvi]

ここで愛するドン・アルバロについて語らずに終わることはでき「ドン・アルバロにせん。確かに、この2014年は「ドン・アルバロの年」だと考えられる「おいるの生誕百周年では、3月にはその生誕百周年では、もっと後列するはないまでの列福式に参列するはは、り流ちてらの対しましたするようにです。神との対しまり深みのあるものにます。神とのはよりによりによう。

ご存知のように、12月23日、教皇様との謁見がありました。属人区の名信者一信徒と司祭、特に病人たちに使徒的祝福をお与えになった上に、オプス・デイの信者の住んでいるあらゆる国で使徒職活動を続けるように、また特に、神の慈しみの敬跡である、実り多い「告解の使徒さいました。

しょう。この使徒職の道具を通して 実現される霊的な善を考えることは 何と楽しいことでしょう。

いつものように、この祝日の日々を 皆さんの傍で過ごすことは大きな喜 びです。そしてこの喜びはますます。 深まっています。私はいつも皆さん と共に祭壇に、またセンターの馬小 屋に赴きます。神なる幼子に私の をお願いすることを忘れな いでください。私は皆さんの意向を イエスの足元に置きました。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2014年1月1日

[i] ルカ 2,14.

[ii] 同上 10.

- [iii] ヘブライ4,15参照。
- [iv] 聖ホセマリア、『道』268番。
- [v] ルカ1,38.
- [vi] 聖ホセマリア、『道』512番。
- [vii] 教皇フランシスコ、年月日 『2014年の世界平和の日のメッセー ジ』1番。
- [viii] ヨハネ13,34-35.
- <u>[ix]</u> 聖ホセマリア、『対話集』61 番。
- [x] 聖ホセマリア、『信仰の富』 1969年11月2日ABCの日曜版に掲載 され、2013年マドリードの出版社 Cristiandadから出た『信仰の小道を とおって』の31-32ページに収録。
- [xi] テルトゥリアヌス、『護教論』 39,7(CCL1,151).

[xii] ベネディクト十六世、2009年6 月20日『真理に根ざした愛』19番。

[xiii] 教皇フランシスコ、2013年12月8日『2014年世界平和の日のメッセージ』1番。

[xiv] 聖ホセマリア、『知識の香』106番。

[xv] 教皇フランシスコ、2013年12月 8日『2014年世界平和の日メッセー ジ』3番。

[xvi] 聖ホセマリア、『信仰の富』 1969年11月2日『ABC日曜版』に掲載され、2013年マドリードの Cristiandadから出た『信仰の小道に 沿って』の34-35ページに収録されている。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shu-

ren-qu-chang-noshujian-2014nian-1yue/ (2025/12/16)